

補聴器や人工内耳

聴覚障害者ら体験語る

自らの体験を基に、人工内耳の説明をする杉崎さん



室蘭ろう学校で勉強会

室蘭ろう学校(山本浩司校長)で八日、補聴器や人工内耳についての勉強会が開かれた。補聴器メーカーの社員や人工内耳体験者が語る、聴覚障害者の音の世界に、参加した同校の父母ら三十人が聞き入っていた。

(長谷川善威)

補聴器メーカー「岩崎電子」(札幌)営業部の中津政典さん(四三)と、人工内耳メーカー「日本コクレア」(東京)の啓発アドバイザーで、現在、人工内耳を装着している

杉崎きみのさん(三〇)と東京在住の講師に招いた。中津さんは「あまり大きい声は割れてしまう。話し掛ける時は、ゆっくりはっきりを心がけて」と助言した。

杉崎さんは十八歳の時に突発性難聴と診断された中途失聴者で、六年前に人工内耳の手術を受けた。人工内耳は、補聴器でも聞こえない重度難聴

者のための技術で、耳の後ろに受信機器を埋め込み、音声を電気信号に変えて、聴神経を刺激する。

杉崎さんは「人間の声を声らしく聞けるようになるまで一年はかかりました」と感想を話した。

「頭に響くので、以前よりは聞こえるようになりました」と感想を話した。